

【主は何をあなたに求めておられるのか。】

聖書本文;ミカ書6章6節—8節/暗唱聖句:ミカ書6章8節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)



今日のメッセージは旧約のミカという預言者と彼が宣べ伝えたメッセージが何であるのかを考えてみる事です。それによってミカ書による神様からのメッセージをもう一度確認する事が出来るでしょう。まずミカ書についてしばらく考えて見たいと思います。

〈預言者ミカはどんな預言者だったのでしょうか?〉

‘ミカ’という名前の意味は‘主のような者はだれなのか?’という意味ですが、彼はイザヤと同じ時代に働きました。つまり、紀元前7世紀の預言者でした。預言者たちには預言をする特定対象がありました。ある預言者は南王国であるユダに向かって、ある預言者は北イスラエルに向かって、そして前回メッセージに出たヨナ(アッシリアのニネベ)やオバデヤ(エドム)のような場合はイスラエル以外他の国に向かって預言をしました。

しかし、聖書に出てくる多数の預言者たちはユダに向かっての預言が多かったです。たとえば、イザヤ、エレミヤ、ヨエル、ハガイ、ゼカリヤ、マラキなどがその預言者らです。北イスラエルに向かって預言した預言者としてはホセアとアモスです。今日の預言者のミカはどっちに向かっての預言者だったのでしょうか?ミカは南ユダと北イスラエル両国へ預言した預言者でした。北イスラエルに対する預言は比較的短めで、おもにユダへの預言が多くありました。

預言者ミカは罪を告発し、神様のさばきを宣言しますが、後半は輝かしい希望を述べています。そしてミカはやがて来られるイエスキリストの誕生について大切な預言をしています。創世記49章10節はメシアなるイエスがユダの部族から来られる事を預言し、第二サムエル7:26節ではメシアなるイエスがダビデの子孫として来られることを預言、ダニエル書9章25節ではメシアの誕生時期を預言しましたが、ミカ5章2節では具体的にイエスキリストの誕生先がベツレヘムであることが預言されました。この預言はヘロデ王がキリストが生まれる所はどこなのか聞いたとき答える根拠になる聖句でもあります(マタイ2:3-6)。

〈一つの質問:神様に喜ばされる礼拝とは何か?〉

今日の本文には一つの質問が出ています。“私は何をもって主の前に進み行き、いと高き神の前にひれ伏そうか?”この質問は要するに神様に喜ばされる礼拝とは何なのかという質問です。そして、神様に喜ばされることをいくつか提示しています。神様は一歳の子牛のいけにえを喜ぶでしょうか?一歳の子牛は生まれたばかりの子牛より高い、立派ないけにえとして扱われました。神様は全焼のいけにえを喜ばれるでしょうか?全焼のいけにえとは完全な献身を象徴していましたが、文字通り、火に焼いてささげるいけにえでした。

そうでなければ幾千の雄羊や幾万の油を喜ばれるでしょうか?

当時神様にいけにえを捧げる時は牛は質で価値が決まりますが、羊は量によって価値が決まったそうです。たとえば、聖書の記録上、幾千の動物をいけにえとしてささげた人はソロモンだけでした(第一列王記8:63)。ソロモン王が神の宮を建てた後、ささげたいけにえがあまりにも多かった事が聖書を通して分かる事ができます。牛が二万二千頭、羊がおおよそ十二万でした。神様はこれほどたくさんのいけにえを喜ばれるでしょうか?

もしくは動物で満足できず、自分の初子をささげるなんて喜ばれるでしょうか?神様が創造された人をいけにえとしてささげる事はレビ記や申命記によると明らかに禁じられた事です(レビ記18:21,2)。しかし、当時カナンでこのように人や小さい子どもを全焼のいけにえとしてささげるモレックなどの偶像を拜んでいました。

神様はこれらを決して喜ばれないと言われました。愛のない礼拝と献身のないいけにえを喜ばれないと言われました。神様の喜ばれる事はほかにあります。これを語っているのが今日の本文の8節です。“主はあなたに告げられた。人よ。何が良い事なのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩む事ではないか。”

神様が喜ばれる礼拝は形にはまった儀式ではなく我々の生き方によって神様を愛し、神様の御心に従って行う事だと言っておられるのです。

〈神様が求めておられる事〉

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん!神様が願っておられる事は儀式や形ではなく我々の生き方でささげる礼拝です。神様は良い事が何であることを示してくださいました。‘良い事’とは神様が喜ばれる事という意味です。

その一つが公義を行う事だと言っています。

預言者ミカが働いていた時はヨタム(739-731BC)、アハズ(731-715BC)、ヒゼキヤ(715-686BC)王の時でしたが、ミカは当時社会の深刻な不義を見ていました。強者によって行われる弱者に対する不義、抑圧(よくあつ)、搾取(さくしゅ)、虐待がひどいでした。(2:1,3;2,3,8,7:2)弱いものを虐待し(3:3)人を欺き、女たちと子どもたちを家から追い出し(2:8-9)升目不足で耕をはかり(6:10)あらゆるいつわりを行います。そうしながら一歳の子牛をささげるなんて何の意味があるだろうか?実際、この時代に社会的な不義よりさらに大きい問題は宗教的墮落でした。ヨタム王は預言者ミカによりユダの破滅と神のさばきを聞いたのにもかかわらず偶像を拜んでいた高きところを取り除かず続けました。それだけではなくいつわりの預言者たちはやがて平和が

訪れると預言します。3章11節をみてください“そのかしらたちはわいろを取ってさばき、その祭司たちは代金を取って教え、その預言者たちは金をとって占いをする。しかもなお、彼らは主に寄りかかって、「主は私たちの中におられるではないか。わざわざは私たちの上にかかって来ない。」と言う”といつわりの預言をするわけです。

このような不義と宗教的腐敗と墮落など真ん中で神様はミカ預言者をとおして信じる人の正しい生き方について強調して伝えたのです。神様が喜ばれる事は心のない礼拝と献金ではなく、むしろ主の公義を行い、誠実を愛し、謙遜に神とともに歩む生き方を願っておられます。

私たちも主の前で正しく生きなければなりません。曲がった時代、誠実に働き、変わらない神の御言葉の真理に基づき、正々堂々と生きなければなりません。(例、平和を求める私たちの祈り)

キリスト教は儀式の宗教ではなく、生き方そのものであり、それが信仰です。偽りと不義と妥協せず、正当に働き、信仰の良心を守りながらの信仰の生き方であります。

二つ目は誠実を愛する事です。ここで誠実とはヘブル語でヘッセードと言いますが、愛、柔和、慈愛、親切などに訳す事が出来ます。つまり、“尽きない愛”という意味です。ですから神様が望んでおられることは落胆しないで、最後まで愛を施し、親切に仕えることです。これが誠実を愛する事の意味です。愛と配慮、弱者に対する関心、これが神様を信じる者たちが持つべき社会的、教会的義務なのです。どの社会にも、共同体にも弱者がいるのは当然ですが、持っている者の義務は弱者をかえりみることです。愛の仕えと実践こそ、神様を愛する具体的信仰のあらさしであり、真の敬虔なのです。

キリスト教の初期、キリスト教をけなしたルシアンという人でさえ、クリスチャンたちに対してこのような記録を残しています。“彼らは血肉ではなかったが、兄弟であって、互いに愛し合うようにと教えた。その兄弟たちに助けが必要な時はためらわずに、助けの手を伸ばし、惜しまずに愛を示していた。”と書かれています。そして3世紀以前の聖職者たちの文書によく出た言葉は“すべての物について自分の物だと言うな”だったそうです。

これをまとめて見ると、初期クリスチャンたちは貧しくても、こまった隣人を救済し、病んで、苦しんでいる人々に愛と慈愛を施し、牢屋に入っていた人々をかえりみていたということは福音に対する確信、救いに対する感謝の表しとしての愛の働きをしていたと言えます。我々は回りに自分の助けを必要としている人がいないのかいつも愛の関心を持ってかえりみつつ、仕えていながら生きるべきです。一度施す程度ではなく施して、配慮して仕える生き方こそが我々の信仰の表しである事を覚えておきましょう。赦しと慈愛を実践し続けましょう。これを神様は喜んでおられるのだと言っているのではありませんか。

三つ目に、神とともに歩む事を神様は喜んでおられます。

神様との同行(どうこう)これはクリスチャンとしての一番美しい生き方です。神様との同行を言う時一番のロールモデルは旧約聖書のエノクという信仰の人物を出す事が出来ます。創世記5:21、22節によるとエノクについての説明はたった三つだけでした。しかし神様の前では一番すばらしい生き方でした。“エノクは65年生きて、メシエラを生んだ。エノクはメシエラを生んで後、300年、神とともに歩んだ。そして、息子、娘たちを生んだ。エノクの一生は365年であった。”

エノクは一生神様とともに歩む生き方を大切に生きていた人だったのに違いありません。

創世記5章24節でもエノクについて語る時、神とともに歩んだことを強調しています。

“エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。”エノクの一生が大切な意味を持っているのは彼が神とともに歩んだということです。ヘブル書の著者(ちょしゃ)は彼の生涯をこのようにまとめまっています。ヘブル人への手紙11章5節です。“信仰によって、エノクは死を見る事のないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれている事が、あかしされていました。”神様が我々に示してくださった良い事！それは公義を行い、誠実を愛し、神とともに歩む事です。

<まとめ>

愛する信仰の家族のみなさん！神様に何を持って教会に来られたでしょうか？感謝する気持ちをもって来られたでしょうか？感謝献金をもって来られたでしょうか？我々が持ってきたものより神様がもっと喜ばれる事は“ただ公義を行い、誠実を愛し、神とおもに歩む事”であることを今日の聖書は教えています。これこそが神様が求めておられる事です。つまり、我々が神様にささげるものより、大切なのは神様のための我々の献身した生き方そのものなのです。

ユダヤ人たちは律法を暗記し、その暗記したことを自慢していました。彼らは旧約に248個の命令があることを見つけ出しました。これを律法の条文(じょうぶん)のように暗記していました。おそらく彼らはこれらのことを守ろうとし、一生懸命に努力はしたと思いますが、神様に対する心からの愛と真実がないままだったと思います。そうしながら自分たちだけが義なる者の様に歩き回ったのです。それがパリサイの高慢でした。そういうわけでイエス様は外側だけが美しく見えても内側は偽善と不法でいっぱいだと叱られたのです(マタイ23:27)。

こんにち我々に大切なのは内側の心です。そして日常の生き方です。神様はみなさんの内側の心を見抜いておられます。ほかの人々は分からないかもしれませんが、神様はすべてをご覧になり、すべてをご存知です。神様は我々に‘良い事’を教えてくださいました。この‘良い事’を現代の概念で言うと、‘最高の善’と言えるでしょう。それは公義を行い、誠実を愛し、神とともに歩む生き方です。みなさんの日々が公義を行い、イエスキリストを愛し、神様とともに歩むすばらしい生き方となりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！